

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1 【いきる】	①かけがえのない命 全ての生命は、かけがえのないものであることを実感し、大切にする。 ④夢や希望の大切さ 夢や希望をもつことは、生きる価値を見出すことであり、つらく厳しい状況を乗り越えられることになることを実感する。	総合

題材1 いのちの授業：「命の大切さを知り、生き方を考える」

【対象】 5年生児童

【実践の概要】

ねらい 命の誕生について知り、自他の命を大切にし、自分の生き方を考えさせる。

内 容 助産師さんを講師に招き、「命の大切さ」についての講話を聞く。

講師：佐藤美代子 花巻「いずみ助産院」代表

- ①「助産師って、何？」
- ②「自分の出身地は、どこ？」
- ③「いのちの始まりの大きさ、4週間後の大きさ」
- ④「いのちの音を聞いてみる。友だち同士の心臓の音、胎児の心臓の音（妊婦さん）」
- ⑤「赤ちゃんが生まれてくるときの3つの工夫」
- ⑥「赤ちゃんの抱っこ体験」
- ⑦「生きているだけで100点満点、ひとりじゃ大きくなれない。（DVD鑑賞）」



【児童の感想】

わたしは、命の授業を受けて、どれだけ大変なのかが分かりました。実際に赤ちゃんを抱っこしたり、お腹の中でどのようにしているのかを学んだりすることができました。この授業を受けて、「お母さん、産んでくれてありがとう」と思いました。とても、大切な勉強ができたと思います。

改めて、自分が生まれてきたことは、すごいんだなと思いました。赤ちゃんの心臓の音を聞いて、音が速くてびっくりしました。でも、それくらい赤ちゃんもお腹の中で必死なんだなと感じました。

今まで、友だちがいることは普通のことだと思っていたのですが、よくよく考えてみれば、「すごい奇跡」なんだと思いました。これからも、もっと自分の命や友だちの命を大切にしようと思いました。

【まとめ】

お母さんがこんなに頑張っているということを感じることができました。今回は、わざわざこのような授業をしてくださり、ありがとうございました。

これからは、自分の命を大事にしていこうと思います。

震災で両親を亡くした児童がいたり、離婚により片親となっている児童が多かったりする5年生。その児童に配慮した形で内容を構成していただいた。

学習後の感想では、「いのちの大切さ」「親への感謝」について記している児童が多くあり、子どもたちなりに大事なことを感じ取っていたと思う。保健体育の内容とは違った意味で、大切な学習であったと感じている。

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑬地域づくり 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。 ⑭復旧・復興へのあゆみ 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。	生活 社会 総合 特活

題材1 ふるさと大槌・夢：「未来のふるさとへの想いをケーキに」

【対象】 6年生児童・プロジェクトスタッフ（コーディネーター・パティシエ）

【実践の概要】

ねらい 「こんな“ふるさと”だったらいいな」という想いをケーキにしてみようというプロジェクトを通して、未来の大槌について考えさせる。

- 内 容
- ①みんなで「こんな“ふるさと”だったらいいな」を考える。
 - ②「こんな“ふるさと”だったらいいな」を夢ケーキの絵に表す。
 - ③グループごとに「こんな“ふるさと”だったらいいな」を発表しあう。
 - ④ふるさと夢ケーキを作って、みんなで食べる。



【児童の感想】

今日のケーキ作りは、楽しかったです。
 初めに、パティシエの人たちがマジパンで作ってくれました。人とクマとかぼちゃを作りましたが、すごく上手でした。

— 中略 —

わたしは、最後に「自分」を作りました。

顔は上手にできたけれど髪の毛は上手につけられませんでした。でも、楽しかったです。

最後にわたしたち一人ひとりが将来の夢を言い、その後にパティシエの人が「夢を叶える・見つける方法」を教えてくださいました。

- ①言葉 「ありがとう」と言うこと
- ②表情 「笑っていると楽しいことがある」
- ③動作 「下を向いて歩かず、上を向いて歩いて」
- ④イメージ 「明日など、楽しいイメージをもつ」
- ⑤感謝 「感謝の反対語は、当たり前」 電気がついているのは当たり前、家があるのは当たり前だと思う、感謝をすること。

ということを教わりました。わたしは、今までいろんなことが当たり前だと思っていました。でも、これを教わり、これからは感謝しようと思います。

子どもたちが考えた「ふるさとへの想い」

- ・にぎやかで帰りたいようなふるさと
- ・みんなで力をあわせてまとまったふるさと
- ・郷土芸能がさかんなふるさと
- ・いろいろなお店があるふるさと
- ・広い公園をつくってみんなが健康にくらすふるさと



【まとめ】

- ・構想を練る活動、ケーキに表現する活動を通して、大槌の未来や地域のこれからの発展について子どもなりに考えることができた。
- ・グループでの活動を通して、友だちの考えを尊重したり、よさを発見したりするなど、お互いの人間関係を深めることができた。
- ・パティシエという職業の方と身近に接することにより、専門職に対する理解を新たにすることができた。

題材2 仮設団地の方々とのふれあい：「広げよう 笑顔の輪」

【対象】 2年生児童・保護者ボランティア・仮設団地の方々

【実践の概要】

ねらい ・いろいろな活動を通して、支援してもらっただけでなく、自分たちが町を元気にしようという気持ちをもたせる。

内 容

①仮設団地へ出向き、ダンスを見せたり、歌を歌ったり、手作りのプレゼントを贈ったりする。

- ・ 7月5日（金） 小鎚側を挟んで学校の反対側に建つ佐野屋仮設団地へ行って、運動会で踊った「学園天国」のダンスや大槌小学校の新しい校歌を紹介してくる。
- ・ 見に来て下さった方々に「メッセージと折り紙」を手渡し、交流する。



【児童の感想】

- ・ 仮設団地の人たちに、運動会で踊ったダンスを見てもらってうれしかったです。
- ・ 自分たちでつくったプレゼントやお手紙を渡すことができうれしかったです。



【地域の方の感想】

- ・ 初めて新しい校歌を聞きました。明るくて素敵な曲ですね。ありがとう。
- ・ 子どもたちが来るということで、アメリカの友だちから頂いたチェリーを用意しました。楽しみにして待ちました。
- ・ 仮設住宅で一人でしたので、きょうは子どもたちに癒されてよかったです。



②自分たちで育てたサツマイモを使って焼きも会を計画し、仮設団地の方々に招待して、一緒に食べる。



焼きも会

- ・ 日にち … 11月25日（月）
- ・ 時間 … 10時35分から
- ・ 場所 … 大槌小学校 中庭
- ・ 準備する物 … 軍手・タオル
- ・ おまけ … 歌・プレゼント

【児童の感想】

- ・ きょうは、やきいも会がありました。おばあちゃんやおじいちゃん、たくさんのお客さんが来てくれて、やきいもを食べてもらったり、歌をきいてもらったりしました。楽しんでもらえたので、よかったです。
- ・ ぼくはプレゼントを渡すときに「わざわざ来てくれてありがとうございます。」と言いました。そしたら、お客さんが「ありがとう。」といってくれました。うれしかったです。
- ・ やきいもを入れるとき、かおがあつくなりました。プレゼントを渡したらよろこんでいました。とても楽しいやきいも会でした。

【まとめ】

- ・ 子どもたちが案内状を持って、仮設住宅を一軒一軒まわったことで、つながりをもつことができた。
- ・ どちらの企画も、子どもたちが地域の方々に喜んでもらえるように、計画から話し合っ活動していた。「ありがとう」の声をいただき、子どもたちなりに成就感をもつことができた。

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	20 学校・家庭・地域での日頃の備え 避難場所や避難方法、避難経路を把握して、安全に避難する。 21 身を守り、生き抜くための技能 危機を予測（回避）し、災害や事故に直面した際に自他の体を守り、被害を最小限に止め、非常時に生き抜く技能を身に付ける。	総合特活

題材 1 避難訓練：「いのちを守る避難訓練 ～自分で考えて行動する力～」

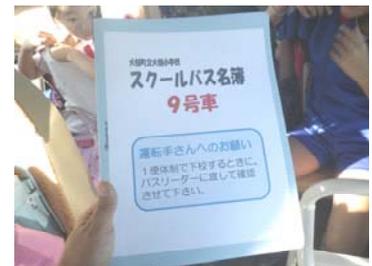
【対象】全児童・職員

【実践の概要】

ねらい 地震・火災等発生時の状況を理解し、安全に避難する方法について訓練を通して身に付けさせる。

内 容

- 第1回 津波避難（避難経路の確認）
- 第2回 津波避難（小中合同の訓練）
- 第3回 津波避難（下校時避難訓練）
- 第4回 火災避難（学習時火災訓練）
- 第5回 津波避難（休み時間の訓練）
- 第6回 不審者対応避難訓練



【児童の感想】

～小中合同訓練から～

- ・中学生がいたので、安心した。「おはしも」を守れてうれしかった。
- ・命を守るためにやっているのだから、おしゃべりを我慢しないとダメだなと思った。中学生が静かにみんなを待っていてすごいと思った。
- ・中学生が立派だった。中学生と訓練することで、協力して助け合えるんだなと思った。
- ・中学生がすごいと思った。私もあのような中学生になりたい。

～下校時の訓練から～

- ・バスの中は危険じゃないと思ったけど、すごく危険だった。バスの中でいつも大きな声でみんながしゃべっている。地震などのアナウンスが聞こえないかもしれないので、心配だと思った。
- ・バス班長だから、みんなを安全に避難できるよう頑張りたいと思った。
- ・避難の仕方をしっかり覚えて、先生がいなくても班の人たちをちゃんと避難させようと思いました。

【保安員・学童職員の感想】

- ・参加させていただき、われわれ職員にとっても非常によい経験になりました。
- ・もう少し子どもたちにも団体での役割を持たせ、班の人数を確認して先生へ連絡するなどできればいい。
- ・訓練なので仕方がないことかもしれないが、緊張感が足りないような気がした。

【まとめ】

- ・関係機関と連携しながら、下校時の訓練をすることができた。児童の掌握の在り方が、課題として残った。
- ・心のケアとセットにした避難訓練の継続と、子どもたちの意識の持たせ方、校庭や体育館等にもしっかり聞こえるような放送機器の設置が課題である。